

『新型コロナウイルス感染対策におけるPCR検査の利点と課題』

～感染制御と社会経済を両立した健康で豊かな社会を取り戻すために～

2020年10月5日 17時～19時

【オンライン開催】

本年1月に SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)の日本で最初の感染が報告され、同1月28日に感染症法に基づく指定感染症に指定されるとともに、行政検査による感染対策が始まりました。しかしながら、検査機関や医療機関における感染検査体制の整備が遅れたため必要な数の検査の実施が出来ず、また医療機関における感染者の受け入れや診療の体制を含めた危機管理の脆弱さが露呈するなど、多くの課題が明らかになりました。

感染検査の拡大は、水面下の感染者の特定と隔離による公衆衛生上の感染制御、医療機関における通常の診療業務や社会経済活動の再開の観点から不可欠なことは共通の認識であると思えます。しかしながら、最も有効な方法である PCR 検査の意義と利用目的については、政府、地方自治体、医療機関、産業界等において様々な意見があります。

本シンポジウムでは PCR 検査の利点と課題を明確にし、感染制御と社会経済を両立した国民の健康で豊かな社会を取り戻すための方法論と提言に向けた本質的な議論をパネルディスカッション形式で行いたいと考えています。

演者 (50音順)

- 大曲貴夫 (国立国際医療研究センター 国際感染症センター長)
- 岡部信彦 (川崎市健康安全研究所 所長)
- 尾崎治夫 (東京都医師会 会長)
- 小柳義夫 (京都大学ウイルス・再生医科学研究所 所長)
- 渋谷健司 (King's College London 教授)
- 自見はなこ (参議院議員)
- 田澤裕光 (京都大学医学部附属病院 特任病院教授)
- 中谷祐貴子 (厚生労働省 コロナウイルス感染症対策本部・血液対策課長)
- 西浦 博 (京都大学医学研究科 環境衛生学 教授)
- 本席 佑 (京都大学医学研究科 がん免疫総合研究センター センター長)
- 松村康史 (京都大学医学研究科 臨床病態検査学 准教授)
- 宮地勇人 (東海大学医学部 基盤診療学系臨床検査学 教授)

プログラム

- 17時00分～17時05分 主催者挨拶 本席 佑
- 17時05分～18時15分 演者による発表 (各5分) と質疑応答
休憩
- 18時20分～19時00分 総合討論

司会進行: 小柳義夫(京都大学ウイルス・再生医科学研究所 所長)

松田文彦(京都大学医学研究科 ゲノム医学センター センター長)

参加申し込み

参加ご希望の方は以下のURLよりお申し込みください。
後日、ZOOMのアクセス情報をご登録いただいたメールアドレス宛に送付させていただきます。
申し込みは先着500名とさせていただきます。定数に達し次第締め切ります。

<https://www.cci.med.kyoto-u.ac.jp/>



申し込み締切日: 2020年9月30日(水曜日)

問合せ先: がん免疫総合研究センター事務局
060office-ccii@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp